



学校だより

白樺の学舎

松本市立波田中学校 令和4年11月18日 NO.8

令和四年度
学校教育目標
「やかたづくり」
やさしさ
かしこさ
たくましさ

「先輩の話を聞く会 ～三澤 拓さん講演会」

“できるかできないかではなく、やるかやらないか”

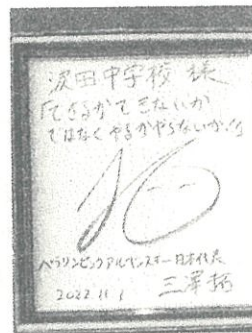
～波田中の先輩から皆さんへ～



三澤さんのお母さんがおっしゃっていた「なんでもできるから大丈夫」という言葉に心を打たれました。私は失敗を恐れたり、慣れていないことはやらないなど、新しいことにチャレンジすることは自分からあまりしないので「なんでもできる」という前向きな考え方をこれから自分もやってみようと思います。新しくチャレンジして、得意なことなど自分についての新たな発見がたくさんあったらいいなと思いました。

受験生なので勉強など努力しないといけないことがたくさんあります。そんな時に全力でやることを大切にしたいと思います。三澤さんのスキーの姿に勇気づけられる人はたくさんいると思います。これからも頑張ってください。波田で応援しています。(3年)

三澤さんは片足を失ったとき、お母さんに「なんでもできる」と言われて、本当はいろいろなことをするのに努力が必要なはずなのに、足のある人と同じように、足のある人以上にできることを増やしていてすごいと思いました。それはきっと、三澤さんが、周りから何か言われても、めげずに挑戦を続けて、努力したからこそだと思います。三澤さんは「片足がないからできないだろう」とやる前からあきらめないで、たくさんのことに挑戦し、夢中になれることを見つけたから、35歳になった今、幸せだと思えていることを知りました。私は今まで、「自分は走るのが遅いから野球も下手だろうな」と勝手に想像して、やる前からあきらめてしまうことがありました。ですが、今日の話聞いて、何もしていないのに「できない」と勝手に考えていた自分がちょっといやになりました。やらないで何も残らないより、やって失敗した方が何倍も価値のあることだと知ったので、これからは「できないだろう」という想像でやらないのではなく、「できないかもしれないけど、やってみよう」という前向きな気持ちでいろいろなことに取り組んでいきたいです。私が35歳になったときに、「幸せ」だと言えるように挑戦をたくさんしていきたいです。(1年)



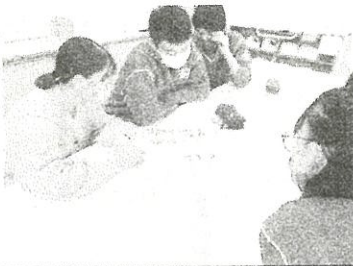
「できるかできないかではなく、やるかやらないか」という言葉を聞いて、「それはそうだろう」と思う自分がいた。しかし、話を聴くうちに心が揺らぐのを感じた。それは何よりも、僕には到底想像できない状況下での拓さんの覚悟を感じたからだ。自分の思っていた「できるかできないかではなく、やるかやらないか」という言葉の意味がガラリと変わったのだ。自分の今までの行動とか態度とかがすべて情けないものに見えた。しかし、「ポジティブに励ましてくれた母の言葉に元気づけられた。きれいごとであったとしても、ネガティブな言葉を出すのではなく、ポジティブな言葉を出してほしい」と聞いたときに、自分の見ていた世界の小ささを感じた。だから僕は「ありがとう」やポジティブな言葉を心から絶やさないようにしたいと思う。講演ありがとうございました。(2年)



以前、波田小で聞いた三澤先輩の講演でしたが、その時とはまた違った思いで受け止めた生徒が多かったようです。なお、講演会後には、生徒有志や野球部との交流を通して、挑戦するエネルギーを注入していただきました。



梓川高生とともに考える第一歩に「KAWAトーク」



11月11日(金)、梓川高校から40人の生徒が来校。3年生と小グループで「出張KAWAトーク」が行われました。テーマは「波田地域のよいところや課題」。最初は緊張気味でしたが、高校生のリーダーシップですぐに和やかな雰囲気ですぐに付箋を活用しながら意見交換が展開されました。受験に向けてや高校の情報など、プラスαの話で盛り上がったグループもありました。

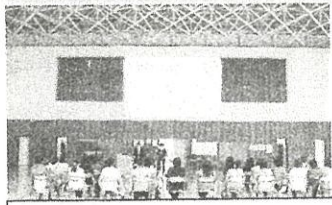
かねてより中高の交流機会を模索してきた中、今回の「KAWAトーク」が実現しました。若者目線で「地元の波田地域」について思いや意見を交わすことは意義深く、今後につなげていく第一歩の意味合いがあると思っています。一歩を踏み出した中高連携。「町キレ挨拶運動」に高校生も参加という具体的な取り組みも検討され始めています。地域を担う中高生の今後に期待したいところです。

3年ぶりの波田文化祭(11/5,6 波田公民館)に参加



合唱部と吹奏楽部がステージ発表、美術部と6、7組の皆さんが作品の展示発表等、地域のイベントに参加できました。普段あまり接点のない地域の皆様に波田中生を知ってもらう機会となりました。

りんごの色は何色? 「人権教育講演会(10/28)」



人権講演会を聴く保護者の方々

参観日に合わせ、「人権教育講演会」がありました。松本市住民自治局人権共生課の担当者の方から「多様な性のあり方について」と題してお話を伺いました。『りんごの色』という動画を見て、性的志向や性自認は人それぞれ違いがあり、かつ、誰もがかけがえのない「ひとり」であることについて、気づき、考えるきっかけとなる講演内容でした。

生徒は各教室からライブ配信を視聴し、保護者はホールで聴講しました。性の多様性を示す用語(例えば、LGBTQやSOGI、性的マイノリティー、カミングアウトやアウティング)を正しく理解することは大切ですが、理解するだけでなく、性は多様だということを、他人事としない気持ちが必要なんだと感じました。

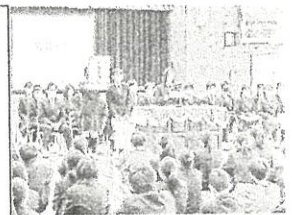


山月華道サークルの皆様による、生花(昇降口)です。絶やさず飾っていただいています。

学校からの連絡を「home & school」に一本化しました。通知を添付できるメリット等があり、ご理解いただくとともに、ご承知おきください。

学校では生徒会の引継ぎ時期を迎えています。11月29日の立会演説会や投票を前に、候補者・推薦責任者が教室訪問を行っています。いよいよ2年生の出番ですね。

12月に入ると早速、保護者懇談会が始まります。どうぞよろしく願いいたします。コロナ感染対策に引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(文責 校長 藤松輝州)



2学年の「学年内立会演説会」の様子